

演習 2A 最終レポート

～COMIC CITY 東京 122 の参加報告および台日同人誌即売会の比較～

歐亞軒

一、前書

今回演習の課題として同人誌を制作し同人誌即売会で販売することにした。扱った作品は『爆走兄弟レッツ&ゴー!!』(以下は『レッゴ』と略称)であるが、その理由は個人の趣味の他に、当作品は今年 15 周年を迎えることになるため、お祝いの気持ちも含めて描かせていただいたのである。そして同人誌即売会の選択においては、制作期間を考えた上、東京圏で申込可能のイベントにした。それが「COMIC CITY 東京 122」である。

二、同人誌の制作について

今回の作品は表紙を含めて 24 ページである。個人能力そして面白さを考えて四コマ漫画を中心にした。それに先生の指導のもとで 4 ページの短編漫画を加え、さらに自分のやりたかったマシン擬人化のイラストを 4 ページ入れた。内容は主に『レッゴ (WGP 編)』を今人気の『Axis Powers Hetalia』でパロディーしたものである。製本は「サンライズ東京支店」様に頼んで 30 冊を制作した。

三、COMIC CITY 東京 122 について

2009 年 6 月 28 日に東京ビッグサイトで行われた同人誌即売会である。募集規模は 8000 スペースで、去年の同イベントでは総来場者数が約 17000 人であった。今回のイベントでは懐かし特集として『美少女戦士セーラームーン』がピックアップされ、セーラームーン世代の自分にとってもテンションの高い一日であった。

当日は 10 冊売れたが、時間毎の販売状況は表 1 である。『レッゴ』はどちらかというとマイナーの作品だと思われるし、当日同じ作品を扱うサークルは他にはなかったので、来場したお客さんのなかにレッゴファンである方は多くないとも予想し、さらに自分は初参加であるし広告一切出していない状況なので、10 冊はもう満足できる成果だと思っている。ほぼ開場してすぐ来てくれた方がいて、いつも『レッゴ』のオンリーイベントを主催してる方だと分かった。買ってくれたお客さんの中に、二十代に見える女性が大多数であった。他に三四十代だと思われる方もいたが、やはり私と同じ世代或いはその上の年齢の人は『レッゴ』がリアル世代であるためだろう。そしてスペースに来てすぐ購入してくれた方も二三人いたが、それ以外本を手にとってくれた方々は結構読んでから買うか買わないかを決めたようすであった。

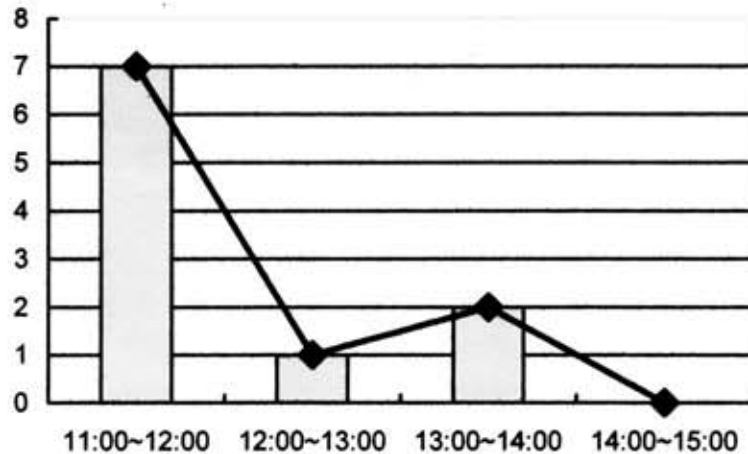


表 1

四、台湾と日本の同人誌即売会との比較

台湾で一番規模の大きい（女性向けの）オールジャンル同人誌即売会「CWT」（COMIC WORLD TAIWAN）に直接参加したことが何回あるので、台日両方での経験を踏まえその異同について少し述べたいと思う。

台湾は結構日本の文化をそのまま受け入れていると思われるので全体的にはあまり変わらないが、一番大きな違いだと感じたところはサークルのスペースである。与えられた机のサイズは日本では横 90cm×奥行 45cm のに対して台湾では横 90cm×奥行 90cm であった。会場の広さも関係あると思うが、机が大きい代わりに台湾ではサークルのスペースが狭く感じたのである。そしてサークルの並びにも少し違いがある。それは日本では「島角（お誕生日席）」と呼ばれるスペースは台湾では設けられていないとのことである。

今回の COMIC CITY 東京 122 はコスプレ禁止であったが、日本ではコスプレに関するルールは厳しく決められているのに対して、台湾では結構自由の感じでハッキリした規則はない。他人に迷惑をかけないように行動するのが暗黙の了解なのだが、明文の規定がないためトラブルが起こったこともあった。その辺はもっと日本の経験を見習うべきではないかと考えられる。他に、日本では列の形成はある時間以後に決められたりしてるが、台湾では同人誌即売会のみならず、コンサートや他のイベントなどでもよく見られる現象は徹夜の並びである。民族性というかそれぞれの慣習が反映されていると思う。

五、終わりに

日本で同人誌を頒布することはなかなか出来ない体験だと思うので、今回は本当に貴重な経験で楽しくやらせていただいた。残りの本は 9 月に行われる『レッゴ』オンリーイベント「おかげさまで 15 周年！！」に委託販売するつもりである。